



熱戦を繰り広げる選手＝可児市大森奥洞、漱玉館

小中生、気合の一本

可児市でバロー杯争奪剣道大会

第1回バロー杯争奪少年剣道大会(バローホールディングス主催)は11日、可児市大森奥洞の武道場「漱玉館」で開き、小中学生でつくる県内と愛知県の10チームが覇を競った。

剣道人口が減少する中、伝統ある武道の素晴らしさを伝えようと大会を創設。開会式ではバローH.Dの田代正美会長兼CEOが「日頃の鍛錬を十分に発揮してほしい。世界大会に出られる剣道ができるようになった」と激励した。

7人制の混成団体戦で、先鋒、次鋒は小学1～4年生、五将、中堅、三将は小学5、6年生、副将、大将は中学生が務めた。二つのブロックに分かれた予選リーグと、決勝トーナメントで戦った。選手は仲間や会場の応援を受け、気合を込めて技を繰り出していた。

優勝は志道館学園(大垣市)、準優勝はさくら会少年剣道部(加茂郡八百津町)だった。(小森直人)